

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570700247		
法人名	社会福祉法人黒潮会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	宮崎県串間市大字南方4210番地 (電話) 0987-71-1172		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人系列の高齢者総合福祉施設近くにある立派な門構えの和風建築で、周りに花が植えられ親しみやすい雰囲気のホームである。西側は行き止まりの広い道路と防風林が広々として静かな環境である。小学校も見える所にあり、運動会に行ったり、訪問を受けたりしている。管理者が変わり、ホーム独自の理念を、職員が利用者の立場になって作りあげている。全職員の熱意ある姿勢により、利用者一人ひとりが生き生きとして安心した自由な生活を送っている。また、同法人の高齢者総合福祉センター等と防災訓練や、職員研修など常に連携がとれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価に対して、職員が連携し、事業所独自の理念を作り上げるなど具体的な改善に取り組んでいる。避難訓練は地域住民に働きかけをしている。居室に使い慣れた物の持ち込みについては、利用者によっては混乱をまねくケースもあり、家族と相談している。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員一人ひとりが取り組んだことで、利用者の対応を振り返る良い機会となり、今後の取り組みに活かされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 家族会代表、地区住民代表、市職員、地域包括支援センターの出席で、ホームの状況報告等が行われ、また、出席者の立場から広く情報交換等が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族会や運営推進会議、家族の来訪時に意見等を聞いている。また、書類を送るときに問いかけたりしている。機関誌で、日ごろの活動の様子や利用者・職員の状況と紹介等を写真入りで報告し、家族が安心できるように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入し、清掃に参加している。さらに、行事等に参加できるよう依頼している。また、定期的に小学校との交流を行っており、農園での収穫祭は毎年恒例となっている。警察署、消防署とも日ごろから密接に連携がとられている。

## 【情報提供票より】（平成20年5月13日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤10人、非常勤8人、常勤換算6.8人	

### （2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～1階部分

### （3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	27,000 円	その他の経費（月額）	実費 円	
敷金	有（円）	（無）		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（円）	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### （4）利用者の概要（平成20年5月13日現在）

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名	
要介護1	2	要介護2	5			
要介護3	7	要介護4	3			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	82.9歳	最低	72歳	最高	95歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	中島医院（内科）、岡村歯科医院（歯科）
---------	---------------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が利用者の立場になって事業所独自の理念を作り、事務室に掲示されている。広報誌「のぞみ'Life」でも周知している。	○	理念を事務室だけでなく、利用者や家族、地域の人々に理解してもらえるように、見やすいところに明示することが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で利用者の気持ちになって、思いをこめて作られており、職員ヒヤリングでも日々のケアに生かされていることがうかがえる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し清掃にも参加している。さらに、行事等に参加できるように依頼している。また、小学校との交流を定期的に行っており、農園での収穫祭は毎年の恒例となっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりが取り組みまとめたもので、利用者への対応を振り返る良い機会となった。前回の外部評価に対しては、職員が連携して、事業所独自の理念を作り上げるなど具体的な改善に取り組んでいる。		

宮崎県串間市 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、地区住民代表、市職員、地域包括支援センターの出席で、ホームの状況報告等が行われ、また、出席者の立場から広く情報交換等が行われており、ホームを拠点とした地域の中での役割が期待される。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者からのアドバイスを受けるなど、日ごろから相談しやすい関係ができており、行政主催の研修などに参加することでサービスの質の向上につながっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や来られない方には、電話で必要な報告をしている。また、機関誌で、小学生との芋掘り交流等日ごろの活動や利用者・職員の状況と紹介等を報告している。金銭管理については、毎月明細書を送り、来訪時に出納帳と残金の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話で意見を聞いている。また、苦情処理ノートを設置し、苦情や要望に対応している。その内容は、法人の設置するサービス向上委員会で検討し、外部に公開している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動で新たに勤務する職員については、辞令が交付される前に利用者にあいさつなどして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

宮崎県串間市 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で人事考課制度、目標管理制度、日常的なトレーニングはOJTを活用した育成を行っている。また、事業に関連する外部研修にはできるだけ参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修を通じて交流を行っている。	○	研修の交流だけでなく、地域の事業所を相互訪問するなど、お互いに学び合う機会づくりも期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に職員が本人と家族に会い、ホームに来てもらったり、また、デイサービスを利用しながら少しずつ慣れてもらうなど、なじみの関係を作り利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の主体性を尊重し、調理、掃除、菜園など見守り支援をしている。味付けや菜園の手入れなどは、利用者に教わることもあり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、利用者の以前からの生活リズムを生かすために、家族からも情報を収集している。利用者の生活を見守りながら、一人ひとりの希望・意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や利用者の状況に応じて、生活リズムを生かすような介護計画を職員会議を基に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ファイルにケアチェック表、ケアプランなど綴じられているが、週1回開くケースカンファレンスと状態変化に応じて開いたカンファレンス記録が、パソコン内にあり直ぐには見ることができなかった。	○	ケアプランのファイルにアセスメントから介護支援経過とモニタリング等、カンファレンスの記録も、職員が介護計画に沿った援助をするために、いつでも確認できるように工夫してほしい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護と医療連携体制加算の指定を受けている。通所利用者も調理したり、食事を楽しむ様子がみられた。家族の都合によっては通院介助や送迎をすることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で掛かりつけ医の医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制と、職員研修を行い重度化した場合の体制はできており、利用者に変化があった場合など、その都度本人や家族、主治医と話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	食事介助の必要な人の隣で共に食事をしながら、さりげなく介助している。排泄なども気を配り、プライバシーに配慮している様子が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は本人の希望に合わせ、昼と夕食は利用者全員で食べるようにしている。利用者主体の生活を考慮し、できるだけ一人ひとりの希望に沿って支援している。		

宮崎県串間市 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告を見て、献立から買い物、調理、後片づけ等を利用者と職員と一緒に和気あいあいと楽しそうに行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば、同性の人が介助したり、夜間の入浴にも対応するようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的には、調理等の手伝い、洗濯物たたみ、個人的には踊りの稽古や園芸など本人がやりたいこと、得意なことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は戸外の散歩をしている。また、希望があれば朝市や外食、花見などに出かけるようにしている。意思表示のできない利用者の思いの把握に努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。表の門にはセンサーで出はiriがわかるように工夫している。さらに、近隣の住人の協力も得られ、利用者が一人で外に出られたときに素早く対応できている。		

宮崎県串間市 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の災害訓練は年2回、ホームの避難訓練は月1回実施している。また、運営推進会議でも民生委員や自治会長へ協力を呼びかけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立に偏りがないように多くの食材を使い、定期的に栄養士に見てもらっている。飲み物や食事の摂取量が少ない利用者については、個別に把握表を作り、摂取できるように援助している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にある居間は堀こたつ式で、デイサービス利用者も一緒に食事ができるようになっている。中庭からの日ざしが、広いリビングを明るくし、あじさいなど季節の花が飾られ居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や家具を持ちこむなど個人差があるが、それぞれの事情を考慮し家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう援助している。		

※  は、重点項目。